

Die Eiche

ディ アイヘ
<http://www.jdg-chiba.com>



Japanisch-Deutsche Gesellschaft
der Präfektur Chiba
〒274-0822 船橋市飯山満町 2-518-1
清和会第2ワールドナッシングホーム内
電話 047-461-9111 Fax 047-461-7010

コロナをめぐるドイツの現状と対応

-千葉県日独協会の今後の活動も含めて-

いったんは収束に向いつつあるように思われた新型コロナウイルスですが、まだまだ予断を許さない状況が続いています。この間、千葉県日独協会でも、新年度に入り対面による恒例の催しは中止を余儀なくされています。

ここでは、最近のドイツの話題を紹介しながら、ポストコロナと千葉県日独協会の活動についても若干触れてみたいと思います。

【警告アプリ】

ドイツでは6月16日から、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を目的とした「コロナ警告アプリ」の提供が開始されました。ドイツ政府のホームページには次のように書かれています。

「コロナ警告アプリは、感染者と接触したかどうか、感染の危険性があるかどうかを判断するのに役立ちます。このアプリを使うことで、より迅速に感染の連鎖を断ち切ることが可能となります。無料でダウンロードできます。」

初日から何百万もの人がダウンロードしたとのことですが、国民の半数は「インストールするつもりはない」という調査結果もあります。

【付加価値税の引き下げ】

7月1日から12月末までの限定措置として、日本の消費税に相当する「付加価値税」の税率が引き下げられました（標準税率が19%から16%、食料品などに適用される軽減税率が7%から5%）。減税規模は200億ユーロ（約2.4兆円）になるようです。ドイツ経済研究所の試算では、今回の措置で1世帯月に最大116ユーロ（1万4000円）家計の負担が減るとのことです。

しかし別のアンケート調査では、10人に9人は、税率が下がっても、計画外の消費を増やすつもりはないと答えており、経済的効果はあまり期待できないとも言われています。

【来年の総選挙】

来年9月には、連邦議会選挙が行われます。コロナは、選挙にどんな影響を与えるでしょうか。

代表的な世論調査機関であるアレンスバッハ研究所が7月22日に発表した予測は、以下のようなものでした（カッコ内は2017年9月24日の総選挙結果）。

まず、キリスト教民主／社会同盟は、38.0%（32.9%）に上昇しています。その理由として、賛否はありますが、メルケル首相のコロナ対応への一定の評価が挙げられています。自身が物理学者でもあり、科学的根拠にもとづいて理解と協力を訴える彼女の説得力をもった真摯な呼びかけは、国民に大きな信頼感を与えました。また緑の党も20.0%（8.9%）と急上昇しています。脱原発などの政策が国民の支持を拡大していることがわかります。

これに対し、社会民主党は15.5%（20.5%）と凋落が目立ちます。メルケル首相の政治的スタンスがどちらかというと中道左派であること、緑の党に支持者が流れていることも関係しているようです。

一方、反ユーロ、移民・難民の排除を主張する極右のAfD（ドイツのための選択肢）は、9.0%（12.6%）で、少し下がっては

ますが国民の1割近い支持を集めています。面白い政治風刺画を見ました。「昔は、コレラ・ペスト間の選択。今は、コロナ・AfD間の選択」。



国民に呼びかけるメルケル首相（政府HPより転記）

かつては、第三党として連立政権のパートナーを担ってきた自由民主党は、5.5%（10.7%）で、このままですと議席すら確保できない可能性があります（ドイツでは5%の得票数が得られない政党に議席は配分されません）。旧共産党の後継である左派党は7.5%（9.2%）で旧東ドイツ地域を中心に一定の支持があります。

なお最近の世論調査では、国民の65%は政府のコロナ対策を支持しています。17%は「さらに厳しく」、17%は「もっと緩和を」と答えています（FAZ電子版2020.7.13）。

現代ドイツを代表する哲学者であるハーバーマスは、「われわれの無知を、これほど多く思い知らされたことはいまだかつてなかった」と、新聞のインタビューで語っています（FR電子版2020.4.10）

新型コロナウイルスについてわれわれは何も知りませんでした。想像もつかなかった災禍が世界中の人々に降りかかってきました。ポストコロナはどんな時代になるのかわかりません。

このような状況の中で、千葉県日独協会として日独文化交流の一端をどのようにして担っていったらよいでしょうか。

在ドイツ日本大使館のホームページを見ますと、当協会とも縁の深い「独日協会アム・ニーダーライン」をはじめとするすべての独日協会のURLとメールアドレスが掲載されています。今後とも対面による会員間の親睦を深めていくことはもちろんですが、コロナ危機をきっかけにオンラインを積極的に活用して、これら諸協会との交流を活性化していくことも考えられるのではないかと思います。（副会長：木戸 裕）

新運営委員-編集委員の抱負

MIT CORONA時代に向けて

今年もあっという間に夏になりました。ふり返れば2020年前半はコロナ一色でした。おかげで（"wegen Corona"）東京オリンピック・パラリンピックはじめ世界中で重要なイベントが、ことごとく中止、あるいは、延期に追い込まれました。



コロナの影響はドイツでも例外ではなく、あの冷静沈着なドイツ人を"Hamsterkauf"に駆り立て、デモ参加者はマスク着用が義務付けられるという、これまでの常識からは到底考えられなかった現象を引き起こしました。間違いなくコロナは、世界中の人々の生活・行動様式、物事の考え方や人生観・価値観を大きく変えてしまいました。

私達千葉日独協会も、将来の"mit Corona"時代に向けて変わらねばなりません。私も運営委員の一員として"trotz Corona"の精神の下、新しいIT技術も積極的に導入して - もちろん会員の安全第一は不変 - 会の運営に全力を尽くします。また、共生（"mit Corona"）時代における日独協会の在り方を探求します。

将来いつか、「今があるのは、あの時コロナの苦勞があったから（"DANK Corona"）」とみんなと共に笑いながら今日を振り返る日が来ることを心から楽しみにしています。

そういえば当協会も、25年前のドイツ軍人追悼慰霊祭をきっかけに設立され、その慰霊祭もまた100年前の「スペイン風邪」の犠牲者の霊を慰めるものでした。（理事：植松 健）

ザルツブルク音楽祭100周年 -現地の状況-

新型コロナウイルスの影響でヨーロッパ各地の音楽祭が中止となる中、オーストリアでは、創立100周年を迎えるザルツブルク音楽祭が開催されます。

ザルツブルク音楽祭 (Salzburger Festspiel) は、第一次世界大戦後の荒廃したヨーロッパの人々を和解させる平和プロジェクトとして創立され、1920年から一度も途切れることなく開催されてきました。今年は新型コロナの影響で開催が危ぶまれる状況になりましたが、他国に先んじた厳しい措置が功をなし、欧州ではじめに規制緩和が実現され、音楽祭総裁ラーブル＝シュタードラーの強い意志により、開催することが5月25日に発表されました。

開催には安全を第一に掲げ、期間と規模が大幅に縮小されました。日程は7月18日から8月30日の44日間の予定を8月1日から8月30日までの30日間に、会場は16か所から8か所に、公演数は220以上から110に、販売座席数も1/3に減らされました。

また演目も変更されました。例えばオペラは、稽古が短期間で済ませられ、オーケストラ編成が100人以下で1mのソーシャルディスタンスが確保できるなどが条件となり、これに合わない演目は来年に持ち越されます。また、休憩が無くされたため、演奏曲目の変更もあります。

観客側へは、消毒液の設置、マスクの着用、会場の区分け、休憩や飲食売場の取りやめ、チケットへ購入者の連絡先情報を入れるなど、厳格な安全対策が取られます。またチケットの払い戻しや再販規定も設けられました。

音楽祭総裁は、6月に出した声明冒頭で、音楽祭創立者の一人ホフマンスタールの言葉「意志を持ちさえすれば、そこには既に何か達成されている (筆者意訳)」を引用し、この困難な状況下においても決してあきらめられない決意を述べました。ホフマンスタールの作品『イエーダマン』は第一回ザルツブルク音楽祭の演目であり、今でも必ず上演される音楽祭のシンボリックな作品です。これはザルツブルク大聖堂広場に作られた特設会場で行われる野外劇で、大聖堂を背景とし、本物の教会の鐘が鳴り、周りを中世からの建物に囲まれ、まさにザルツブルクという街そのものが舞台となっていることが実感できるものです。

ザルツブルク音楽祭創立者の言葉からの引用で始まる総裁の会見は、音楽祭の歴史を強く意識した決意が感じられるものでした。例年の華やかさは影をひそめても、困難な時こそ芸術は人々の心に必要であるという音楽祭の原点を見つめる機会となることでしょう。(常任理事 土屋 有里)



今年のプログラム表紙
(音楽祭HPより転記)



特設会場-Domplatz
(音楽祭HPより転記)



今年のイエーダマンのプログラム
(音楽祭HPより転記)



2014年イエーダマンの舞台風景
(Wikipedia: Christian Michelides氏の画像転記)

ドイツの街紹介 -ザイフェン (Seiffen)-

ドレスデンから南に約60キロ、エルツ山地中部の山あいに木工製品の「おもちゃの村」で有名なザイフェンがあります。チェコとの国境の近くに位置し人口2000人余りの村ですが、現在も村全体が自然のおもちゃ箱のようです。また、年間を通じて冬はスキーとクリスマス、夏はリゾートとしても良く知られています。

ザイフェン村は15世紀に開始された錫鉱山で栄えた後、19世紀の衰退を境に鉱夫が副業としていた木工のおもちゃ作りが主要産業となり、旧東独時代を経て現在に至っています。

その伝統を守り木材を使った職人技により村の工房で作られる作品は、くろみ割り人形、ロウソク熱で回転するクリスマスピラミッド、ツリーに飾る木製オーナメント、民家の窓を飾るロウソク立、村のシンボルフィギアなどで、世界中に多くのマニアを持っています。

数年前から2度にわたり数日滞在し、村の人々との出会いを通じ、自然の豊かさや木工おもちゃの魅力を体験しました。ドレスデンから電車とバスを乗り継いで行くこともできますが、我々はレンタカーを運転して、開けた丘陵と山間の道を通り、道に迷いながらも約1時余りで村の入り口の木製人形モニュメントの場所まで辿り着きました。

小さな村の中心地のホテルに泊まって工房や売店を見学し、素晴らしい村の雰囲気に触れることができました。

約1.5キロ先にチェコとの国境があり、日本では体験できない隣国チェコの小さなスーパーで安く買い物をし、ガソリンスタンドに自由に行くこともでき、陸続きの国境を身近に体験することができました。ある日、日帰りでプラハまで数百キロを往復ドライブしましたが、国境を越えてチェコに入るとすぐにズデーテン地方(チェコのドイツ人旧居住区)を通過します。そこはザイフェン村とは異なり、一部の風景にはドイツとチェコの過去の国境紛争の歴史を感じさせる雰囲気が残っているようでした。

旅先には中々組み入れにくいザイフェン村ですが、クリスマスシーズンにドイツを旅すれば、各都市でクリスマスマーケットが開催されています。会場にはほとんどザイフェンのおもちゃの売店が開設されていますので、現地の村まで行けなくてもオリジナル作品の購入はほぼ可能です。

新型コロナパンデミックの渦中でも、アフターコロナに備えて希望を持ち続けたい旅先として、ドイツのザイフェン村はその第一候補です。

「Spielzeugdorf Kurort Seiffen」と入力すると、村の公式HPから2つ情報が得られます。(常任理事: 志賀 久徳)



ザイフェンに向かう車窓



村の工房と売店



木工人形たち



村の入口のモニュメント



村の中央にある教会



おもちゃの博物館

わたしのドイツ語学習法

-竹内 優-

ドイツ語学習方法と一口に言っても様々で、見て覚えるのが得意、耳から覚えるのが得意、コミュニケーションを通して覚えるのが得意、メディアを使って学ぶのが得意など様々なタイプがあります。今回ご紹介するのは、私がこれまで実践してきたドイツ語学習法です。自分に合う学習方法は学習者により異なるので、あくまでも一例として捉えて頂ければ幸いです。

【色分けで冠詞、形容詞の格変化 & 名詞の性】

ドイツ語学習初期、冠詞や形容詞の格変化、名詞の性を覚えるのに苦労しました。自分は目で見て覚えるタイプだったので、ある時から色分けをして覚えることにしました(例: 1格赤、2格オレンジ、3格緑、4格青/男性名詞=青、女性名詞=赤、中性名詞=オレンジ)。これにより言葉が色と結びつき、覚えるスピードが格段にアップしました。また一文を文成分によって色分けし、視覚的に分析してみるのもおすすめです。



【ドイツ語で日記】

ドイツ語で日記を書くのは手軽に出来るアウトプットの一つです。必ずしも長文を書く必要はなく、毎日一文で構いません。自分が知っている単語や文法を使って無理せず出来る範囲で行うのが長く続けるコツです。表現の幅が広がっていくのが実感でき、ライティング力向上にもつながります。ドイツ語でブログやスケジュール帳に記入するのもおすすめです。



【言語設定をドイツ語に】

これは普段使っているスマートフォンやPCの設定をドイツ語に変更するというものです。日付や曜日、天気、アプリの言語などがドイツ語になるため、自然とドイツ語に触れる機会が多くなります。スマートフォンの場合はSiriやGoogleアシスタントもドイツ語に変わるので、ドイツ語で話しかけてみることでちょっとした会話練習をすることもできます。



【一文×オンライン暗記カード】

こちらはドイツ人の友人に教えてもらった学習方法で、新しい単語・表現を一文で覚えるというものです。オンライン暗記カード(アプリがたくさん出ています)の表に覚えたい単語・表現を含んだ一文、裏にその日本語訳を記入し、定着するまで繰り返し見て覚えます。本や動画で気になる単語・表現があればその一文をメモし、その都度暗記カードに追加するのがおすすめの方法です。前後の語をセットで覚えることでどのような語と結びつか、どんな場面で使われるかがわかるので効果的な学習方法だと思います。



今回ご紹介した学習方法はほんの一部です。次回はドイツ語学習におすすめのメディアをご紹介します。

本とドイツが紡ぐ縁



ドイツと私

ドイツと私 - 中村 孝子

1989年11月9日、ベルリンの壁が崩れたとき、そのニュースに最初はただ驚き、本当なのかと疑いました。人々が壁の上で快哉を叫んでいる様子がテレビに映し出されたのを、呆気にとられて見た覚えがあります。その時までは漠然と、東西ドイツは自分が生きているうちは統一しないだろうと思っていました。こんなに突然あっさりと、昨日までは変わらないと思えたものががらりと変わるなんて、歴史が動く時ってこういうものなんだろうかと心が揺さぶられました。当時出版社に就職したばかりの私は、学生時代はドイツ語を楽しく学んでいたものの、当面の仕事には関係ないからとそういったことからすっかり遠ざかっていた。けれどこの出来事はドイツへの興味を再認識させ、いつかは仕事と結びつけたいと、ドイツ語学習を再開するきっかけになりました。

何年後、最後の東独首相だったハンス・モドロウ氏の回想録の邦訳書(『ドイツ、統一された祖国——旧東独首相モドロウ回想録』宮川彰監訳、八朔社、1994年)を編集することになり、刊行にあわせてモドロウ氏が来日しました。慌ただしいスケジュールのなか監訳の先生の大学での講演が急遽決まり、講演後のサイン会は私がセットしました。ところが急だったのでその後の会食の予約がうまく取れず、先生の行きつけの大衆的な中華料理店に席を設けることになりました。個室もないお店だったので、こんなところで申し訳ない、と先生がお詫びするとモドロウ氏は、「こういう店のほうが好きです。地元でよく行く店はちょうどこんな感じだなあ」と、ニコニコしてくつろいでくれました。ドイツ統一の激動を経験した政治家というイメージから、緊張感を感じさせる人かと思っていたのですが、とても気さくな方で、会食の席が温かな雰囲気だったことが今も思い出されます。



もう一つ忘れがたいのが『ベルリンの壁の物語』(クリストファー・ヒルトン著、鈴木主税訳、上下巻、原書房、2007年)の編集でした。この本は、会社から独立してフリーランスの編集者として手がけました。東西ドイツの一般市民の視点から壁に翻弄された時代を描いた力作ですが、日本語版制作にあたりファクトチェックが必要となり、友人の恩師である千葉大学のドイツ史の先生に協力をお願いしました。その先生は、壁の建設をベルリンで目撃した方で、貴重な体験談をたくさんうかがいました。



昨年、私はボトルシップ研究会主催の「『エーリヒ・カウルの日記』を翻訳する会」に参加させていただきました。実はこれが縁で千葉県日独協会に入会させていただいたのです。ドイツへの興味が公私ともにさまざまな縁を紡いでいることに、不思議な思いを抱きながら、とてもありがたく感じています。



『エーリヒ・カウルの日記』の一部

新企画

日独交流150周年記念菩提樹

-その後の成長-

日独交流150周年記念菩提樹を植樹してから来年2021年に10周年を迎えます。これを機会に次号からシリーズで植樹先ごとの菩提樹の成長の様子を紹介していきます。植樹の経緯や植樹先の詳細につきましては、昨年8月より当協会のHP (http://jdg-chiba.com/about/150th_shokujyu-hp_koukai.html) で公開していますが、改めて「Die Eiche」にてお知らせする企画です。

下の写真は当協会の林静誠顧問の阿弥陀山清房院で2011年11月に行われた植樹祭の様子です。当時菩提樹は細長い棒の様な苗でした。それが約10年たちどのように育っているのか、各地の菩提樹情報をレポートします。第1回目(次号)は習志野市にある菩提樹についてお伝えします。

菩提樹は落葉樹ですので、葉が生い茂った様子を見ることができるのは春から初冬にかけて。また初夏の短い期間に小さな可愛らしい白い花を咲かせますが、まだ開花情報はありません。そこで「元気に育っています！」や「花が咲いていました！」等の情報提供をくださる「記念菩提樹応援隊」を今募集しております。多くの方と一緒に日独交流の証である記念菩提樹の成長を見守っていきたくと思います。

●記念菩提樹情報はこちらまでお寄せくださいませ：info@jdg-chiba.com

合わせまして、日頃から記念菩提樹のお世話をさせていただいている関係者の皆様には改めて心よりお礼を申し上げます。

ご参考 日独交流150周年記念菩提樹とは：

1861年に日本とドイツ(江戸幕府とプロイセン)の間で修好通商条約が締結されてから150年目の2011年、ドイツ大使館から記念樹として150本の菩提樹の苗木が全国の日独協会に寄贈されました。千葉県内では多くの市町、企業や団体の方々等のご協力のもと、30本が16ヶ所に植樹されました。

(常任理事：本橋 緑)



植樹祭での記念撮影 (2011/11/13 阿弥陀山清房院-船橋市)

書籍/Buch

モネ、ゴッホ、セザンヌ...近代美術の分野で日本が受容してきたものは主にフランス近代絵画でした。そして、日本の近代洋画の歩み、西洋美術受容を紐解く際、常に研究対象となるのはフランスからの影響であり、ドイツからのそれにスポットライトが当たることは今までほとんどありませんでした。

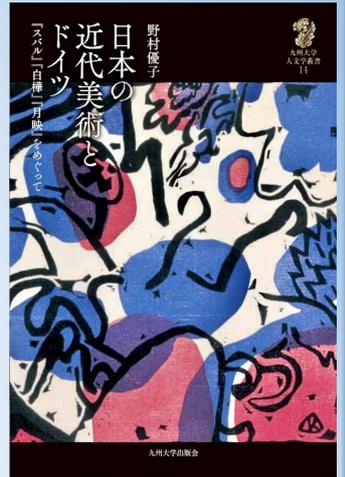
本書で、著者は明治～大正にかけて創刊された文芸雑誌「スバル」、「白樺」、「月映」をたよりに、今まで語られることのなかった「ドイツ」に着目し、近代日本の西洋美術受容においてドイツが果たした役割を、丹念に上記資料を読み解くことで明らかにしています。日本近代美術作品の表面に直接的に表れる影響というよりは、ドイツからもたらされた美術思想面での影響がメインに語られており、ドイツがいかに日本の近代美術の思想面で多大な影響を与えてきたのかを読者に伝えていきます。

また、本書では、習志野俘虜収容所で2年余りを捕虜として過ごしたドイツ人画家フリッツ ルンプフにも触れられており、千葉県日独協会の会員の皆様には特に興味深い内容となっています。

日本の近代美術の発展を「フランスと日本」ではなく「ドイツと日本」という視点から考え、新たな視座を得ることができ一冊です。

野村優子著 九州大学出版会刊 - ¥4,400- アマゾン

(理事：田中 瑛)



今後の予定

新型コロナウイルスの感染状況の動向を注視し、検討できる時期が来ましたら、運営委員会にて定例行事、文化・教養行事、特別行事の企画検討を行います。

●「ビール祭り」は、新型コロナ感染拡大状況により、本年度開催しません。

9月12日(土) 編集委員会
時間： 15:00-15:30
場所： 船橋市中央公民館 第6集会室

運営委員会
時間： 15:30-18:00
場所： 船橋市中央公民館 第6集会室

会員情報

法人会員 医療法人 同和会 千葉病院、社会福祉法人
清和会、(株)京葉ビル管理、(株)和幸電気工事

編集後記

会報誌「Die Eiche」の編集担当になってから、丁度、2年目となる前号の掲載内容について読者より感想を頂きました。これまで協会の会合にて口頭でご意見を頂くことはありましたが、書面にて頂戴致しました。読者からのご意見を賜れることは、非常に嬉しいことです。あらためてこの場を借りて御礼申し上げます。過去、No.116で読者アンケートを実施致しましたが、今後、何名かの読者の方に個別にご意見を頂き、今後の誌面作りで反映するような機会を設けたいと思います。その際は、ご協力よろしく願います。(勝見 浩明)